

事業所における 自己評価結果（公表）

公表：令和5年10月1日

事業所名/コベルプラス大分高城教室

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	4	1		・プレイルームが狭く感じるので、プレイルームには極力物を置かないようにしている。
	②	職員の配置数は適切である	4	1		・体験等の問い合わせが増えており、職員人数が不足していると感じる。特に小さい子には、補助に入る指導員が必要な為、職員募集中である。
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	2	3	・2階に事業所があり、利用児にとって危機リスクが高い為、見守りを強化し、必ず保護者同伴で階段の昇り降りをして頂いている。	・物を仕舞うスペースが少ないと感じる時はあるが、児童が手の届く位置に物を置かず、事故が起きないように、毎日環境を整えている。 ・エレベーターがない為、妊婦の方や赤ちゃんを抱っこしている方が階段を上がる際に危険が生じる場合は、職員が付き添う等、対応をしていく。
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	4	1	・玄関外の手すり等が汚れる事が多い為、こまめに拭き、子どもの手が汚れないようにしている。	・床がコンクリートで、打撲等の怪我の恐れがある為、利用児が使用する部屋及びプレイルーム全面にウルタンマットを敷けるようマットを購入予定。
業務改善	⑤	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	5	0		
	⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	5	0	・集計した評価表を、ホームページに掲載し、保護者等の意見を把握し、	

				業務改善に繋がっている。	
	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	5	0	
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	5	0	(第三者評価実施なし)
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	5	0	・外部研修の参加や内部研修により、支援の質を高めるよう努めている。
適切な支援の提供	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	5	0	・半年に1回は必ずアセスメントを実施。また、保護者面談を行い、ニーズの聞き取りを実施し、個別支援計画書を作成している。
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	5	0	
	⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	5	0	

	⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	5	0	・長期目標/短期目標等に基づいて、療育の計画を立て支援を行っている。
	⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている	5	0	・日々のミーティングで話し合い、共

					通の目標をもって取り組む事を目指している。	
	⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	5	0	・一人ひとりの発達や状況に応じた課題設定となるよう、日々職員間で確認しながら行っている。	
	⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成している	5	0	・一人一人に合わせて、個別レッスン/集団レッスンを実施できるよう、個別支援計画書を作成している。	
	⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	5	0	・朝礼時に1日の流れ、療育担当、利用される利用児の確認を全体で行っている。	
	⑱	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	5	0	・療育終了後に、引継ぎ等を行い、支援の振り返りや気付いた事を話し合うように時間を確保している。	
	⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	5	0	・HUG システムを活用し、毎日療育後に記録をとり、個別ファイルに保管し、情報を共有している。	
	⑳	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	5	0	・半年に1回、モニタリングを実施している。	
関係機	㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	5	0	・サービス担当者会議が開催される	

関 や 保 護 者 と の 連 携 関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携				場合には、基本的に児童発達支援管理責任者が参加をし、子どもの状況を伝え、記録に残している。		
	⑳	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	5	0	・必要に応じて幼稚園、保育園との連携を図れる体制を整えている。	
	㉑	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	4	1	・相談支援事業所の相談支援専門員とは、担当者会議でお会いする機会もある為、情報を交換し、連携を取るようになっている。	・該当児童が少ない。
	㉒	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	4	1		・医療的ケアが必要な利用児が通われているので、通院されている医療機関を尋ね、連絡先等記入して頂き、連絡が取れる体制を整えている。
	㉓	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	5	0		
	㉔	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	1	4		・移行先や保護者の要望に応じて、情報提供を行っている。
	㉕	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	5	0		
	㉖	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	1	4		・事業所として交流活動等の実績はないが、保護者のご希望があれば、通園先との連携などを行う。

						・主に個別の療育の為、保育所や認定こども園、幼稚園等の子と触れ合う機会は少ない。
--	--	--	--	--	--	--

	②⑨	(自立支援) 協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	0	5		・要請があれば、参加する体制である。
	③⑩	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	5	0	・レッスン後のフィードバックの際に、子どもの状況や課題について話をする機会を設け、必要に応じて個別に相談の時間も設けている。	
	③⑪	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	5	0	・月1回、ペアレントトレーニングを実施できるように、保護者へ随時、声を掛けている。	
保護者への説明責任等	③⑫	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	5	0	・契約時に説明を行っている。また、不明な点は随時、お話を聞き、職員が説明を行っている。	
	③⑬	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	5	0	・保護者よりニーズの聞き取りを行い、児童発達支援計画書を作成し、支援内容の説明を行った後に、同意を得ている。	
	③⑭	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	5	0	・希望に応じて相談を受けている。また、定期的なモニタリング時に相談の	

					時間も設けている。	
	③⑤	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	5	0	・感染症対策により、保護者同士の交流は最小限となっていたが、ペアレントトレーニング時に保護者同士で話をする機会が増えている。	
	③⑥	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	5	0	・相談や申し入れがあった場合、電話や面談にて迅速かつ適切に対応するよう努めている。	
	③⑦	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	5	0	・ペルくん通信や、必要に応じて連絡事項を全体 LINE に発信している。	
	③⑧	個人情報の取扱いに十分注意している	5	0	・個人情報に記載された書類は、鍵付きのキャビネットにて保管している。	
	③⑨	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	5	0	・その日に取り組む教材が視覚的に分かりやすいように配慮している。	
	④⑩	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	5	0		
非常時等の対応	④⑪	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	4	1		・職員会議にて対応方法の確認を行い、周知/訓練について日々改善に努める。
	④⑫	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	5	0		・活動時間中の避難訓練を年に2回実施。今後も、定期的な訓練を継続して実施していく予定。

④③	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	5	0	・保護者記入のアセスメントシートにより把握をしている。また、必要に応じて聞き取りを行っている。
④④	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	4	1	・食事提供はないが、アレルギーがあれば活動には取り入れないようにしている（小麦粘土など）。
④⑤	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	5	0	・危険な事例（他教室を含む）があった場合、指定の報告書に記載しているものをチェックしている。
④⑥	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	5	0	・内部研修に、随時参加をしている。
④⑦	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	5	0	・身体拘束に関しては、契約時に記載している書類の説明を行い、同意を得ている。対象児童がいる場合は、個別支援計画書に記載を行う。

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は、事業所全体で行った自己評価です。